

「数理・AI・データサイエンスに関する教育プログラム（スタンダード）に関する自己点検・評価」

到達目標「Society5.0に対応できる情報基盤教育の構築」において、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に関連する活動に関する自己点検・評価結果を示す。

・評価日	2026年10月6日	・評価基準【S・A・B・C】
・評価組織	情報処理委員会（内 自己点検評価委員会）	S：計画・目標以上の成果（又は効果）を上げられた。
・評価対象	2025年度の基礎科目 情報処理の取り組み	A：計画・目標どおりの成果（又は効果）を上げられた。
		B：計画・目標どおりではないが、ある程度成果（又は効果）を上げられた。
		C：計画・目標とした成果（又は効果）を上げられなかった。

学内からの視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	評価結果
プログラムの履修・修得状況	【科目の履修状況】全学必修科目である「基礎情報処理」は学生全員の履修が実現できている。同じく全学科目である「AI入門」の2025年度履修者は126名（2024年度132名）、「データサイエンス入門」は80名（2024年度全学79名）、「プログラミング入門」は63名（2025年度新設）が受講した。3科目とも90%以上の単位取得ができている点から履修状況は良好と評価する。 プログラム修了には、全学必修科目である「基礎情報処理」に加え、情報処理科目のうち2年次以上に開講される選択科目3科目の単位修得が要件となっている。2年次以上で選択科目を1科目以上修得している学生の割合は全体の6%となっている。 【プログラムの修得状況】2025年度より開始した本プログラムは現在学生のおよそ6%が履修を開始している。先行認定を受けたことにより、「AI入門」、「データサイエンス入門」、「プログラミング入門」の履修者は今後増加が見込まれる。2025年度に開始したプログラムであるが初年度から4名が修了しており、プログラムの修得に向けた取組は着実に進みつつある。さらに履修者を増やすために、時間割の配置を検討するなどして、科目履修の促進に努める。	A
学修成果	全学の情報科目では、毎期末に実施する「学生と授業改善について考えるアンケート」において、学生の理解度・達成度を測定している。必修科目の「基礎情報処理」については、学生アンケートの回収率は91%で、「今後も授業でプログラミングを学習したいですか？」に対し、「はい 67%」と概ね良好な結果を得ている。 同じく全学科目の「AI入門」と「データサイエンス入門」、「プログラミング入門」ではアンケート回収率は100%で、「「AI」「データサイエンス」「プログラミング」を、自分で役立たせたい（使ってみたい、利用してみたい）と思いますか？」に「とてもそう思う 59%」「どちらかと言えばそう思う 36%」で、合わせて95%（2023年度93%、2024年度91%）の学生が学修の成果を今後に活かしたいと考え、「「AI」「データサイエンス」「プログラミング」への興味の度合いは変わりましたか？」に対しても、79%（2023年度74%、2024年度73%）の学生が「前より面白くなった」と回答している。以上より、本プログラムの重要性が理解され、興味が高められていると考えられる。	S

学内からの視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	評価結果
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	2025年度の学生アンケートより、「AI入門」と「データサイエンス入門」「プログラミング入門」では、「AI」「データサイエンス」「プログラミング」の概念について、理解できましたか？」に「とてもそう思う 39%」「どちらかと言えばそう思う 60%」で、合わせて99%の学生が概ね理解できたという良好な結果を得た。また、「AI入門」「データサイエンス入門」「プログラミング入門」の授業の難易度は、いかがでしたか？」に対しても、昨年度の調査結果を踏まえて改善を行った結果、今年度は「難しかった 5%（2023年度12%、2024年度6%）」「どちらかと言えば難しかった 24%（2023年度42%、2024年度21%）」という結果を得ることができ、難しく感じる学生の程度を極めて妥当な水準まで落とし込むことができた。	S
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	全学科目である「AI入門」と「データサイエンス入門」「プログラミング入門」では、情報産業への就職や自分の可能性を広げるために受講している学生の意識が、アンケートの自由記述から伺える。以下は、アンケートの結果の抜粋である。これら先輩達の感想は、学科のHPやプログラム紹介用のパンフレットを通じて後輩に伝えていく。 【自由記述抜粋「AI入門」】 ・講義を通じて、その活用の幅広さを実感し、非常に驚きました。非常に有用で回答の幅が広いので、それを用いる私たちも最適解を導くための適切なプロンプトを提示する必要があり、「生成AIがあるから誰でも高クオリティのものを作れる」のではなく「生成AIを使うからこそ、人もその力を最大限引き出せるように努力しなければならない」のだと学びました。 【自由記述抜粋「データサイエンス入門」】 ・統計の話は、高校の数学でやってただけでその後学ぶことがなかったため改めて、みのまわりのことをどのようにデータでとらえればよいか学ぶことができ、新しい視点を持つようになった。 ・実際のデータを用いた分析の体験は非常に興味深く、今後の学びや将来にも役立てていきたいと感じました。 【自由記述抜粋「プログラミング入門」】 ・プログラミングに挑戦することができて楽しかったです。Geminiなどの生成AIも使用することができたので、知識がない状態からでも取り組みやすいと感じました。エラーが表示された際も焦らず、どこがおかしいのか探したり、AIに頼ったりすることができました。プログラミングが実生活に役立っており、技術の発展に重要であることを理解したので、これからも学び続けたいと考えました。	S
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	「基礎情報処理」は全学必修科目であり、履修率の向上を実現させている。その他の科目は、全学科目で学科の自由選択科目となっている。引き続き、新学期履修ガイダンスやホームページでの案内を通して周知を徹底し、履修率向上を目指す。	B

学外からの視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	評価結果
教育プログラム修了者の進路、 活躍状況、企業等の評価	今年度、本教育プログラムの修了者は4名であるが、情報通信業界への就職者の割合が高い。 【業種別就職状況】 情報通信関係への就職率:2024年度 16%、2025年度 21%（就職者における比率） 【職種別就職状況】 SEへの就職率:2024年度 11%、2025年度 15%（就職者における比率）	B
産業界からの視点を含めた 教育プログラム内容・手法 等への意見	日本女子大学外部評価委員会規程に基づき設置されている外部評価委員会（産業界、自治体等の有識者で構成）から、データサイエンスの推進について提言をいただいた（2019年度）。この提言を踏まえ、社会で実践的なICT活用ができる人材育成を目指して、2021年度より全学共通の「AI・データサイエンス・ICT教育認定プログラム」を開設し、文部科学省より「リテラシーレベル」の認定をいただいた。それをさらに促進し、より深く実践的にAI、データサイエンス、ICTの活用する力を身に着けるため、2025年度より全学部において、「AI・データサイエンス・ICT教育認定プログラム（スタンダード）」を開始した。	A
その他	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	評価結果
数理・データサイエンス・ AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶ ことの意義」を理解させる こと	Society5.0の実現する世界をイメージできるように、政府や研究機関、経済団体が提供している動画を視聴させている。多くの動画がドラマ仕立てになっていることから、自分たちの生活が変わっていくことを具体的に理解できるようである。課題として、動画の中で強く意義を感じたサービスとそれを実現する技術についてレポートさせ、さらにAI、データサイエンスを活用して、実現したいと思う技術やサービスを提案させることを考えさせている。それぞれの専門分野との関係も含めて考えさせることで学ぶ意義が理解できるように工夫している。学生アンケートにおいても、「「AI」「データサイエンス」「ICT」が社会に重要であることが理解できましたか？」に「理解できた 70%」、「やや理解できた 29%」と合わせて99%の学生が学ぶ意義を理解できたといえる。	S
内容・水準を維持・向上し つつ、より「分かりやすい」 授業とすること	「学生と授業改善について考えるアンケート」を各期末に実施し、結果を踏まえて分かりやすい授業のための改善を続けている。データサイエンスに関する演習テキストは、アンケートから学生が難しいと感じたところを毎年修正している。「「AI入門」「データサイエンス入門」の授業の難易度は、いかがでしたか？」に対し、昨年度の調査結果では、「難しかった 6%」「どちらかと言えば難しかった 21%」であったが、2025年度は、「難しかった 5%」「どちらかと言えば難しかった 20%」と改善がみられた。「プログラミング入門」は2025年度の新設科目であるが、授業難易度は、「難しかった 4%」「どちらかと言えば難しかった 37%」であり、妥当な水準であるといえる。	A